(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3124875号
(U3124875)
(45)発行日　平成18年8月31日(2006.8.31)　(24)登録日　平成18年8月9日(2006.8.9)

(51)Int.Cl.　　F I
B65D 33/06 (2006.01)　　B65D 33/06
B65D 33/20 (2006.01)　　B65D 33/20

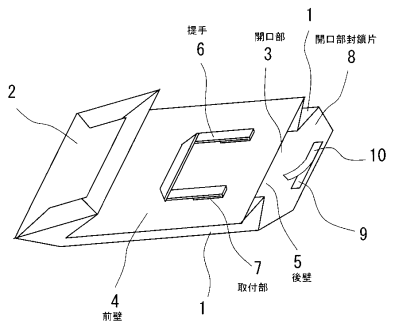
評価書の請求 未請求　請求項の数 2　ＯＬ　（全 4 頁）

(21)出願番号　実願2006-4823(U2006-4823)
(22)出願日　平成18年6月20日(2006.6.20)

(73)実用新案権者　599176698
ニューロング工業株式会社
東京都葛飾区白鳥４―８―１４
(74)代理人　100082304
弁理士　竹本　松司
(74)代理人　100088351
弁理士　杉山　秀雄
(74)代理人　100093425
弁理士　湯田　浩一
(74)代理人　100102495
弁理士　魚住　高博
(74)代理人　100112302
弁理士　手島　直彦
(72)考案者　高橋　弥一郎
東京都西東京市東町６－７－７

(54)【考案の名称】手提紙袋

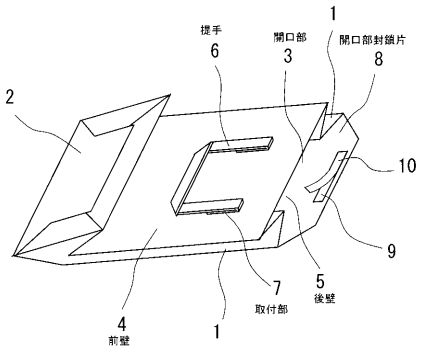
(57)【要約】
【課題】開口部を開口部封鎖片で閉鎖することができ、提手を切れ目に挿通することなく外部に露出させることが可能な手提紙袋を提供すること。
【解決手段】上端に開口部３を有し、前壁４及び後壁５の開口部３寄りの外面にそれぞれ提手６を装着し、前壁４及び後壁５の一方の上端部に他方の上縁よりも突出した開口部封鎖片８を形成し、開口部封鎖片８の突出長さを、他方の上縁から提手６の取付部７までの距離より短くしてある。
【選択図】図１



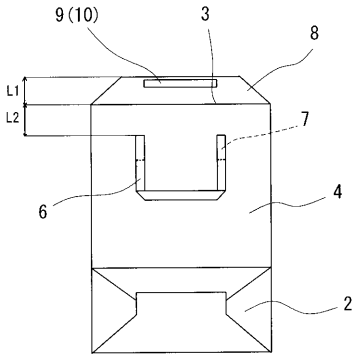
【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
上端に開口部を有し、前壁及び後壁の前記開口部寄りの外面にそれぞれ提手を装着した手提紙袋において、前記前壁及び後壁の一方の上端部に他方の上縁よりも突出した開口部封鎖片を形成し、該開口部封鎖片の突出長さを、前記他方の上縁から前記提手の取付部までの距離より短くしてあることを特徴とした手提紙袋。
【請求項２】
前記開口部封鎖片の内面に接着テープを設けた請求項１に記載の手提紙袋。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、買い物袋等として用いるのに好適な手提紙袋に関する。
【背景技術】
【０００２】
商店で買い物をした場合などには、物品を手提紙袋に入れて持ち運ぶことが多い。
一般的な手提紙袋は、上端が開口し、前後壁の上端寄りにそれぞれ提手を取り付けてある。ところが、このような手提紙袋は、開口部が開いたままなので、収納した物品が外部から見えたり、倒れた時に物品が脱出する心配もある。
そこで、上端開口部を蓋で閉鎖できる手提げ袋が種々提案されている（特許文献１及び特許文献２参照）。これらの手提げ袋は、前後壁の一方の上端を他方の上端よりも突出するよう延長して、折り返し可能な閉鎖蓋としてある。
しかし、提げ手が前後壁の内面や上縁に取り付けられているため、袋の前後壁又は閉鎖蓋に切れ目を形成し、この切れ目を通して提手を外部へ露出させなければならず、提手を切れ目に挿通するのが面倒であるばかりか、加工に手間がかかり、切れ目の部分から袋が破れるおそれもあった。
【０００３】
【特許文献１】実開昭６２－２０３８３５号公報
【特許文献２】実開平５－５４２９０号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
本考案が解決しようとする課題は、開口部を開口部封鎖片で閉鎖することができ、提手を切れ目に挿通することなく外部に露出させることが可能な手提紙袋を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本考案の手提紙袋は、上端に開口部を有し、前壁及び後壁の前記開口部寄りの外面にそれぞれ提手を装着し、前記前壁及び後壁の一方の上端部に他方の上縁よりも突出した開口部封鎖片を形成し、該開口部封鎖片の突出長さを、前記他方の上縁から前記提手の取付部までの距離より短くしてある。
開口部封鎖片を下方へ折り返して他方の壁の外面に重ねることにより開口部を閉鎖し、その前後両側に提手を起立させる。
前記開口部封鎖片の内面に接着テープを設けても良い。
【考案の効果】
【０００６】
本考案によれば、開口部封鎖片を折り返すことにより開口部を閉鎖でき、しかも、折り返した開口部封鎖片の先端は提手の取付部に達しないので、開口部封鎖片や壁に形成した切れ目に通すことなく簡単に提手を起立させることが可能であり、加工が容易で、切れ目から破損する心配も無い。
【考案を実施するための最良の形態】

【０００７】
以下、本考案の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。
本考案の手提紙袋は、図１に示すように、両側壁１を内側へ襞折りし、底部を角底２とし、上端に開口部３を有する角底紙袋であり、前壁４及び後壁５の開口部３寄りの外面にそれぞれ提手６を装着してある。
提手６は、その両端の取付部７を開口部３からやや間隔をあけた下方に接着してあり、未使用状態では、提手６の先端部を下方へ折り返して、弱粘着性の接着剤により前壁４及び後壁５の外面に仮止めしてある。
【０００８】
図２及び図３に示すように、後壁５の上端部を前壁４の上縁よりも長く突出して、突出した部分を開口部封鎖片８としてある。
開口部封鎖片８の突出長さＬ１は、前壁４の上縁から提手６の取付部７までの距離Ｌ２より短くしてある。開口部封鎖片８の内面には、接着テープ９が装着され、接着テープ９を剥離紙１０で被覆してある。
【０００９】
この手提紙袋を使用する時は、図４及び図５に示すように、剥離紙１０を剥がして接着テープ９を露出させてから、開口部封鎖片８を下方へ折り返し、接着テープ９を前壁４の外面に接着して開口部３を開口部封鎖片８で閉鎖する。
また、提手６の先端部を前壁４及び後壁５の外面から剥がして起立させる。
なお、開口部封鎖片８の内面に接着テープ９を設けず、折り返した開口部封鎖片８の先端と前壁４に表面から接着テープを張り渡して、開口部封鎖片８を止めつけることもできる。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】本考案の実施例を示す手提紙袋の未使用状態における斜視図。
【図２】本考案の実施例を示す手提紙袋の未使用状態における正面図。
【図３】本考案の実施例を示す手提紙袋の未使用状態における側面図。
【図４】本考案の実施例を示す手提紙袋の使用状態における側面図。
【図５】本考案の実施例を示す手提紙袋の使用状態における斜視図。
【符号の説明】
【００１１】
１　側壁
２　角底
３　開口部
４　前壁
５　後壁
６　提手
７　取付部
８　開口部封鎖片
９　接着テープ
１０　剥離紙

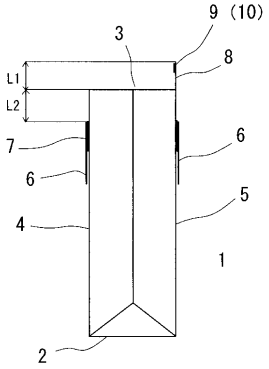
【図１】


提手
6
開口部
3
1
開口部封鎖片
8
2
10
9
7
取付部
5
後壁
4
前壁
1

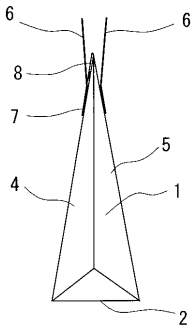
【図２】


9(10)
3
8
L1
L2
7
6
4
2

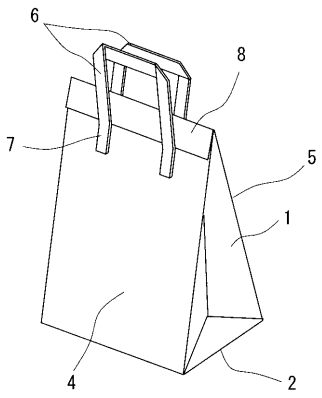
【図３】


9（10）
3
8
L1
L2
7
6
6
5
4
1
2

【図４】


6
6
8
7
5
4
1
2

【図５】


6
8
7
5
1
4
2